

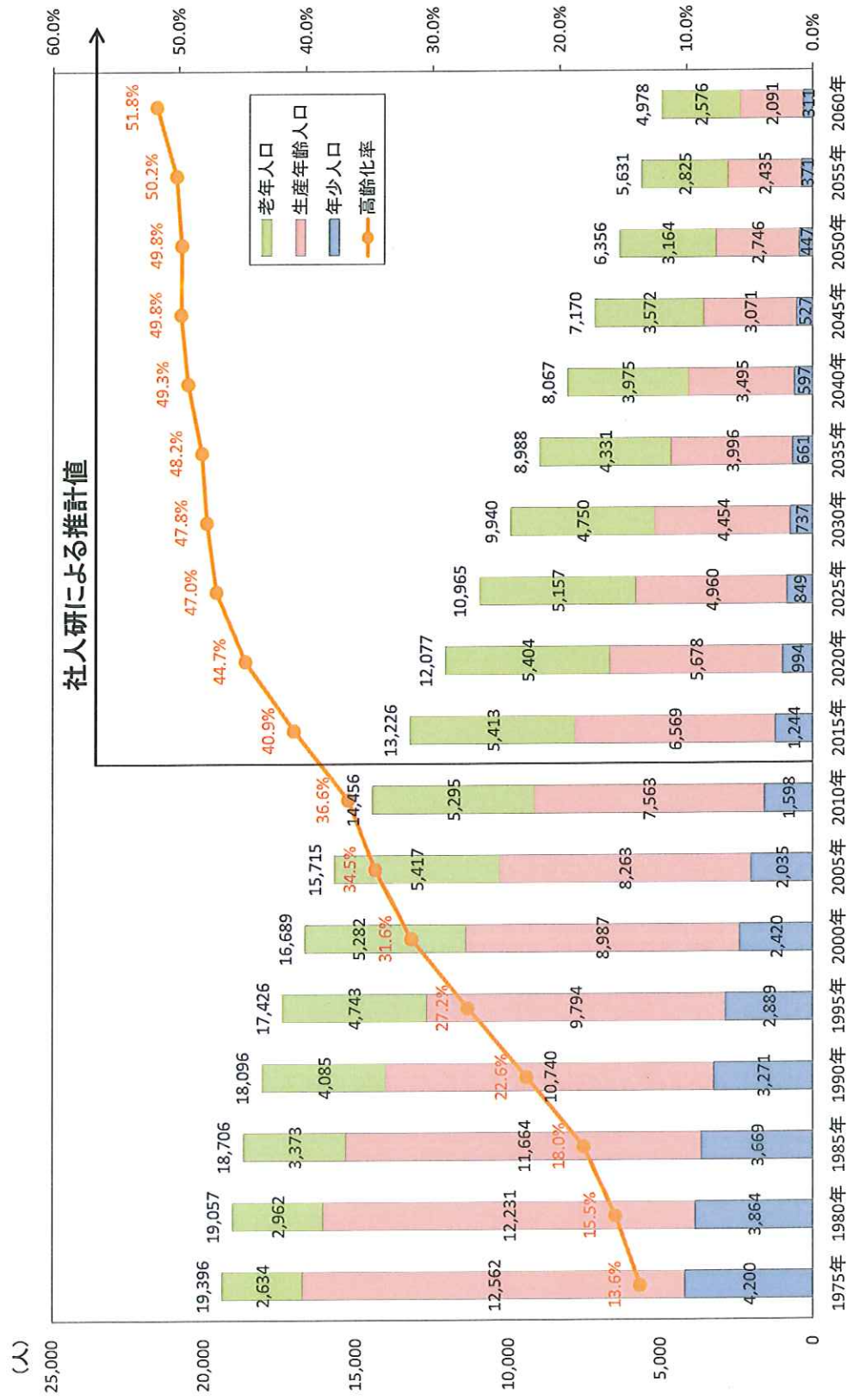
資料No. 2

奥出雲町人口ビジョン (案)

15/07/02

1. 将来人口推計(社人研ベース)

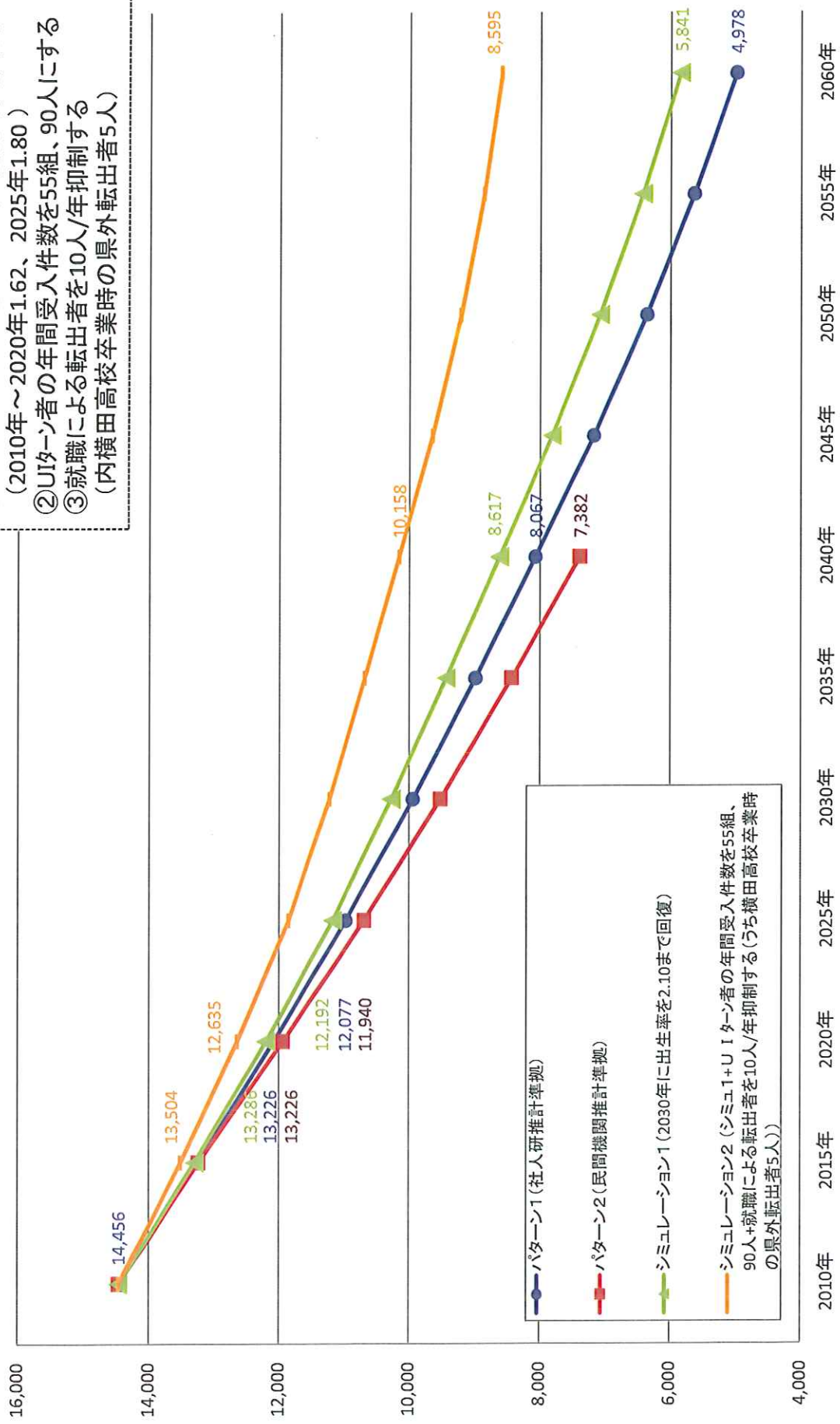
今後も人口動向は「減少」の一途をたどる。2010年時点で約1.4万人だった総人口は、2040年には約8,000人、2060年には約5,000人に減少する。高齢者人口は上昇を続けるが、2015年をピークに減少へ転じる見込み。ただし、生産年齢人口および年少人口も減少を続けるため、高齢化率は上昇を続ける。



2. パターン別将来人口推計

総人口の比較

【シミュレーション2の条件】
 ①2030年に出生率を2.10まで回復（以降も同じ）
 （2010年～2020年1.62、2025年1.80）
 ②UIターン者の年間受入件数を55組、90人にする
 ③就職による転出者を10人/年抑制する
 （内横田高校卒業時の県外転出者5人）



3. 人口対策による効果(2040年)

- ①2030年に出生率を2.10まで回復(以降も同じ)
(2010年~2020年1.62、2025年1.80)
- ②UIターン者の年間受入件数を55組、90人にする
- ③就職による転出者を10人/年抑制する
(内横田高校卒業時の県外転出者5人)

実績	2010年
人口	14,456人
高齢化率	37%
合計特殊出生率	1.62
出生数	76
死亡数	260
自然増減	▲184
転入数	329
転出数	492
社会増減	▲163

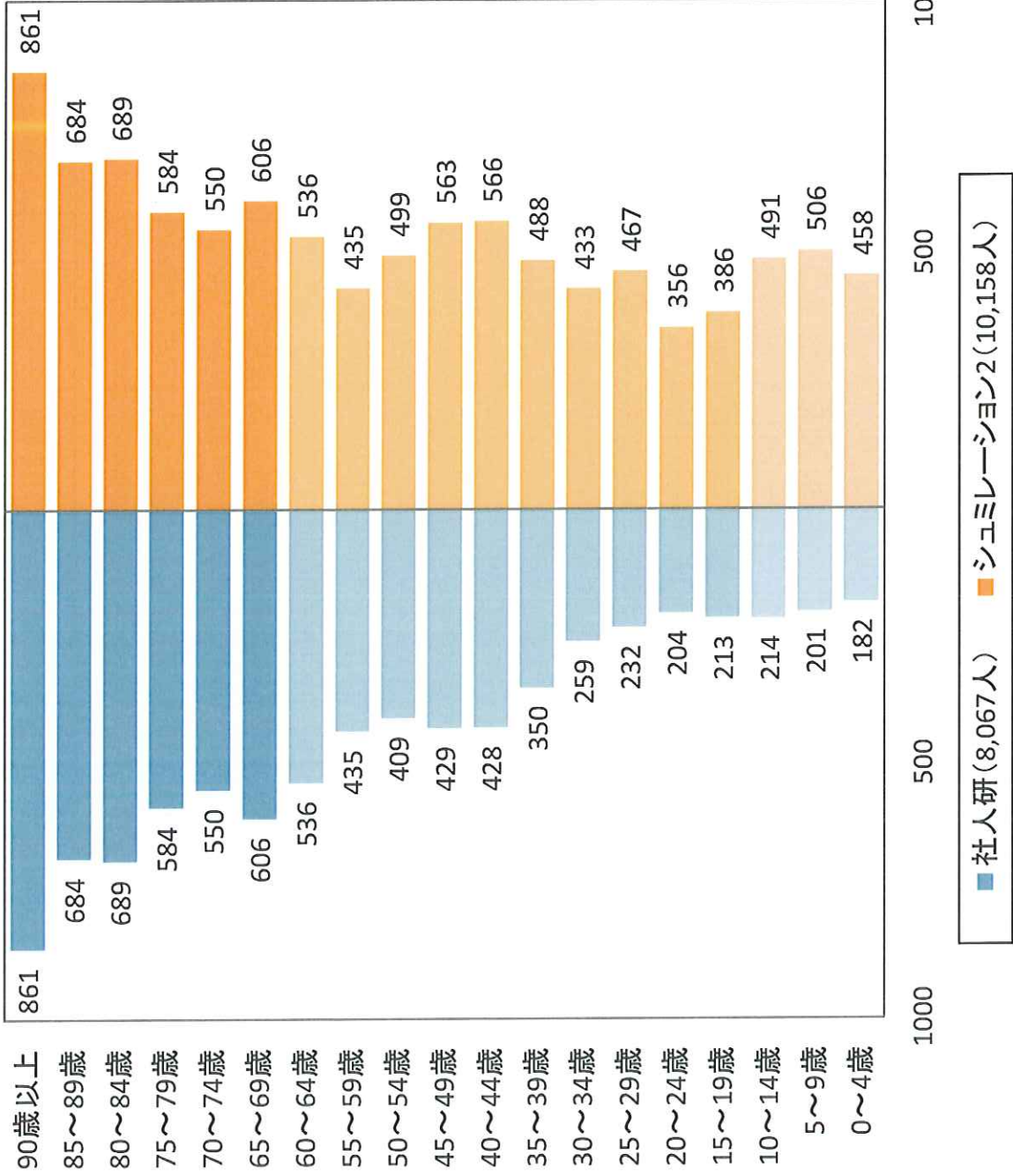


社人研推計	2040年
人口	8,067人
高齢化率	49%
合計特殊出生率	1.33
出生数	36
死亡数	213
自然増減	▲177
転入数	17
転出数	25
社会増減	▲8

シミュレーション2	2040年
人口	10,158人
高齢化率	39%
合計特殊出生率	2.1
出生数	92
死亡数	213
自然増減	▲121
転入数	41
転出数	24
社会増減	17

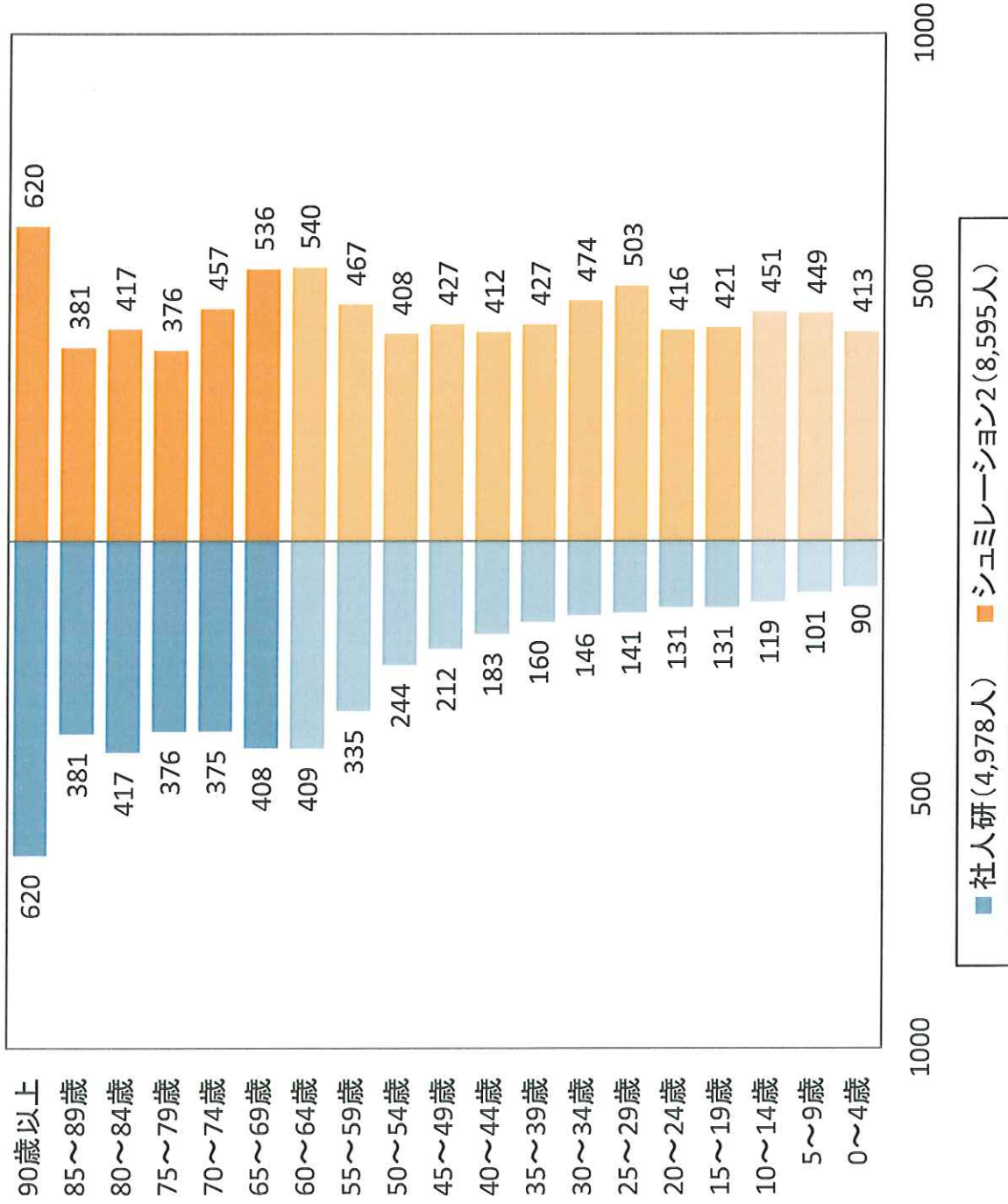
4-1. シミュレーション2の効果分析(2040年)

年齢5歳階級別人口構成



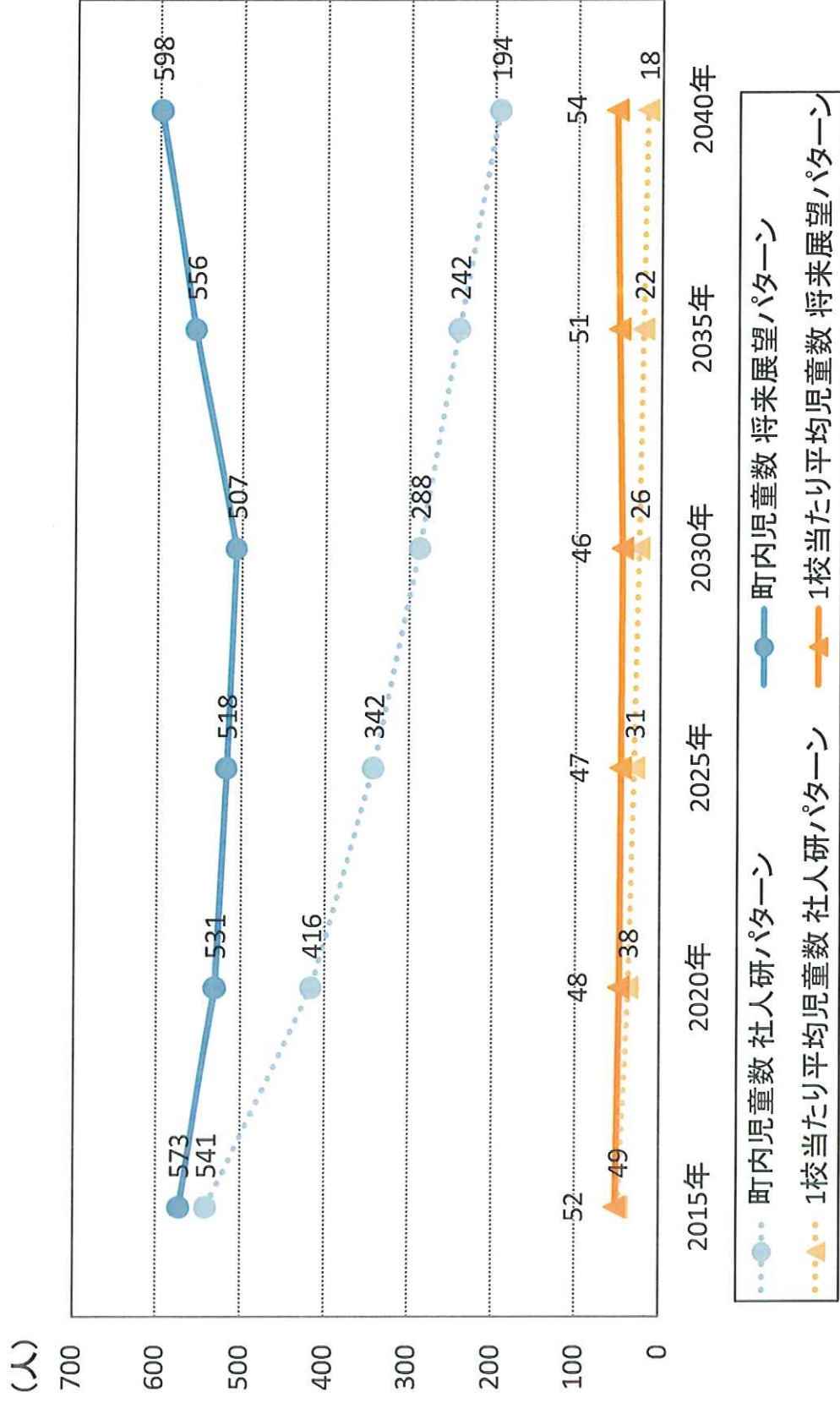
4-2. シミュレーション2の効果分析(2060年)

年齢5歳階級別人口構成



5. 将来影響予測(小学校の児童数)

このまま人口減少対策を講じなかった場合(社人研パターン)、小学校の児童数は、減少の一途をたどる見込み。2040年には1校あたり児童数は18人と予想される(全11校の場合)。
 一方、人口減少対策を講じた場合(将来展望パターン)、しばらくは減少傾向だが、2030年から増加に転じる。2040年には1校あたり児童数は54人と予想される(全11校の場合)。



6. 将来影響予測(食料品等の小売店分布密度)

食料品等の小売店について、今後の分布密度を予測すると、このまま人口減少対策を講じなかった場合(社人研パターン)、人口減少に伴う市場規模の縮小により、2060年には店舗数は現在の4割以下に減少、分布密度は半径1,311m圏内に1軒から2,234mに1軒の割合に拡大する。一方、人口減少対策を講じた場合(将来展望パターン)、2060年の店舗数は現在から3割の減少に留まり、分布密度は半径1,275m圏内に1軒から1,653mに1軒の割合となる。

